

五稜会病院（札幌市北区）

専門看護師がリーダーを務め院内認定の資格者配し 看護カウンセリング外来開設、再入院予防などで成果

医療法人社団五稜会病院（千丈雅徳院長・鈴木由美子副院長兼看護部長、193床）は、6月から看護師による「看護カウンセリング外来」を開設しました。近年、ストレスを起因とする疾患の新患が増加する一方、入院患者の地域移行促進の進展もあって精神科の外来患者総数が増え外来業務が拡大している現状があります。こうした

現状を背景に、精神専門看護師の活動提案として外来における新たな看護の役割について、医師の意見・要望の聞き取り、他のコメディカルとの役割分担と連携を見据えた調整を図りながら、2年がかりで準備を進めてきました。

看護カウンセリング外来は、精神看護専門看護師である八木こずえCNSが実践のリーダーとコンサルテーションを務め、院内規定

に従事できる資格者として位置づけた、認定看護カウンセラーにストレスケア・思春期病棟の定裕美子、伊藤文美の両ベテラン看護師を選定し計3人で担当しています。

看護カウンセリング外来の目的について同病院は、①生活療養指導や単発のカウンセリングによる心理教育の充実化を図り、多様なニーズに対応して患者満足度の向上を目指す、②外来と病棟の架け橋の役割を担い、入院医療の導入

の円滑化を図る、③再入院予防のための退院後の適応促進や家族相談、家族指導（特に急性期）を行う、④実践能力の高い中堅看護師の能力発揮、実践能力向上の機会とする」と整理、設定しています。

開設しているのは、毎週月曜日と木曜日の2日。1人40分以内を目安に運営しています。ニーズが非常に大きいため、当初午後1時半から4時までとしていた受付時間を、8月には午前10時からスタートに繰り上げています。

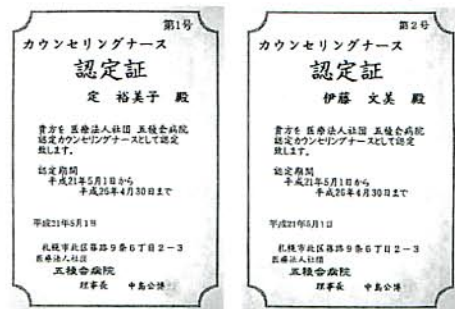
対象は、医師の指示ないしは患者・家族が希望し医師が許可したケース。患者増で診療に十分な時間を割くのが困難な状況にある医師からは、提案当初から「是非やってほしい」と強い希望がありました。同時に院内独自の認定看護カウンセラー制度創設の発案が医師から行われ、具体化に向け発進した経緯もあります。

患者サイドでは、強い不安や心細さを感じたまま退院していき、病棟への電話相談や夜間相談、直接病棟に訪問してくるケースなどが多く、ゆっくり時間をかけて話を聴いてほしいというニーズが顕在化していました。また、患者の中には医師には緊張して伝えられないことが看護師になら話しやすいというケースが少なくありません。看護師が一对一で傾聴を基本に時間をゆっくりかけて面談する看護カウンセリング外来は、医療者、患者の双方に非常に時宜にかなった貴重な機会となっていることが窺えます。

八木CNSらによると、看護カウンセリングは臨床心理士が行う専門療法を前面に出すのではなく、傾聴ケアを最も重視。臨床心理士の専門的な心理療法の適用までは至らないものの、家族には心配をかけるので遠慮してしまい、友人に相談するには重すぎるといった内容の相談等をすくい上げています。具体的内容としては家族や子どものこと、病気の症状、学校のこと、性同一性障害に関する相談が持ち込まれることもあると言います。1回だけの単発のカウンセリング、その後の継続も可能とし、ニーズに応じた柔軟な対応を大事に運用しています。



前列右から時計回りで八木CNS、鈴木副院長、定さん、伊藤さん



看護カウンセラー認定証



名札プレート

マニユアルでは心理士による専門的心理治療を受けているケースは、方針の不一致や重複を避ける

